

⑨ 日本国特許庁 (JP)  
⑩ 公開特許公報 (A)

⑪ 特許出願公開  
昭55-103834

⑤ Int. Cl.<sup>3</sup>  
A 61 B 5/07  
1/00

識別記号

府内整理番号  
7033-4C  
7058-4C

⑬ 公開 昭和55年(1980)8月8日  
発明の数 1  
審査請求 未請求

(全 4 頁)

④ カプセル型観察装置

⑤ 特 願 昭54-9664  
⑥ 出 願 昭54(1979)2月1日  
⑦ 発明者 細野佐美郎  
八王子市館町1097番地館ヶ丘団

地 1-6-1103

⑧ 出願人 オリンパス光学工業株式会社  
東京都渋谷区幡ヶ谷2丁目43番  
2号  
⑨ 代理人 弁理士 鈴江武彦 外2名

発明

明細書

1 発明の名称

カプセル型観察装置

2 特許請求の範囲

前記光学系と観察光学系とを有する観察本体と、この観察本体を回転可能に支持する支持体と、前記観察本体を回転駆動する電磁駆動手段と、前記観察本体により得られる観察データを取り出す手段とを含むカプセル型観察装置。

3 発明の詳細な説明

この発明はカプセル型観察装置、特に体腔内を観察するカプセル型観察装置に関する。

従来から体腔内を観察する医療機器として内視鏡が存在するがこの内視鏡は体腔内に挿入するとき及び観察時に患者に不快感を与えるのでこれを改善するため容易に飲み込めるカプセル状の観察装置が開発されている。その1例としてカプセル内に撮影装置、永久磁石及びコイルを組み込み外部からの磁力線によりカプセル位置を移動させるものがある。このようなカプセル

型観察装置では外部磁界によりカプセルを所望位置に移動させるととき困難が生じ熟練を必要とする。従って、この発明は操作性の容易なカプセル型観察装置を提供することを目的とする。

以下図面を参照してこの発明の実施例を説明する。

図1において観察本体11には照明光学部即ちランプ12と観察光学部13とが設けられる。この観察光学部13は対物レンズ系14と固体掃像素子15とで構成される。観察本体11の外周部11aの1部には磁性体16が取り付けられる。この磁性体16には接点(図示せず)が設けられ接点はランプ12及び掃像素子15に遮体17により接続される。前記観察本体11は間隙18において支持体例えば球状のカバーガラス19により回転可能に支持される。間隙18には絶縁流体20が充填される。この絶縁流体20は観察本体11が球状カバーガラス19内で自在に回転できるよう摩擦の少ないものが選ばれる。カバーガラス19に複

各の電磁石 21a, 21b, 21c が所定間隔で配設され各電磁石には接点(図示せず)が設けられている。電磁石はカバーガラス 19 に取付されたカプセル本体 23 に設けられた電磁石駆動回路 24 に接続される。この電磁石駆動回路 24 は受信回路 25 に上記駆動される。電磁 26 及び掃像電子走査回路 27 は電磁石 21a, 21b, 21c に設けられた接点に接続される。映像電子走査回路 27 は増幅回路 28 を介して送信回路 29 に接続される。

上記カプセル型観察装置は体内に配設されるがこのカプセル型観察装置を外部から駆動する送受信装置(図示せず)はカプセル本体 23 の電磁石駆動回路 24 を駆動する信号を発生する送信回路及びカプセル本体 23 の送信回路 29 から送られる観察データ信号を受信する受信回路とを含む。

上記観察システムにおいてカプセル型観察装置が例えば胃内に投入され外部送受信装置から駆動信号が送信されると駆動信号はカプセル本

体 23 の受信回路 25 により受信されこの受信駆動信号に基づいて電磁石駆動回路 24 が駆動され、例えば電磁石 21a に駆動信号を供給する。この結果、電磁石 21a は付勢される。この結果、電磁石 21a が付勢されると観察本体 11 の外周器 11a に取付された磁性体 16 が電磁石 21a の磁力により引き付けられ観察本体 11 はカバーガラス 19 内を回転する。磁性体 16 が電磁石 21a に接するときこの電磁石 21a に吸引され電磁石 21a と磁性体 16 は吸着する。このとき磁性体 16 と電磁石 21a の接点が接触しランプ 12 が電池 26 により点灯される。また、掃像電子 15 から掃像電子走査回路 27 により映像信号が取り出され映像器 28 で映写され送信回路 29 に供給される。この送信回路 29 により映像信号は送信され外部送受信装置の受信回路で受信され表示装置(図示せず)に映像として表示される。次に電磁石 21a が磁化されると磁性体 16 はこの電磁石 21a に引き付けられ観察本体 11 は回転する。このように電磁

石 21a, 21b, 21c を順次付勢することにより観察本体 11 は矢印の方向に回転します。反対に電磁石 21c, 21b, 21a と順次付勢すると反対方向に回転し所定個所の映像像が得られる。

上記実施例では一方向に電磁石 21a, 21b, 21c が配列されているので例えば、Y 方向にしか観察本体 11 は回転できない。しかしながら第 2 図に示すように電磁石 21a, 21b, 21c, 21a', 21b', 21c', 21a'', 21b'', 21c'' がマトリックス状に配設され X 軸方向に配設された磁性体 16a', 16b' が付加されている。

第 3 図に示す実施例では観察本体 11 に複数の磁性体 16a, 16b, 16c, 16d, 16e が設けられている。この実施例の場合、観察本体 11 の回転範囲がかなり大きくなる。即ち、図の状態において電磁石 21c, 21b, 21a の間に電磁石を付勢していくと磁性体 16c が電磁石 21c, 21b, 21a に順次吸引され

その後磁性体 16a が電磁石に吸着される。このように磁性体 16a から 16e まで大きな回転範囲が得られる。しかもこのような構成であれば電磁石の個数を多くしなくとも充分なる回転範囲が得られる。第 4 図では電磁石 21a, 21b, 21c, 21d, 21e, 21a', 21b', 21c', 21a'', 21b'', 21c'' がマトリックス状に配設され X 軸方向に配設された磁性体 16a', 16b' が付加されている。

第 5 図の実施例では電磁石 21a, 21b, 21c 及びこれら電磁石に接続された接点が駆動ケーブル 33 に接続され 33 を介して接続される。この駆動ケーブル 33 は外部駆動装置に接続される。この実施例によると容器の大きさを考慮が専用でなくしかもカプセル型観察装置のカプセル本体にスペースが得られこのスペース例えば、PH 液定用電極等の測定以外の他の測定機能をもった部材を組み込むことができる。

以上説明したようにこの発明によれば姿勢制御がむづかしいカプセル型観察装置でも広い範

図の観察が可能となるので姿勢制御の困難を充分にカバーできる。

尚、本実施例では觀察本体に磁性体を設けカバーガラスには電磁石を設けたが觀察本体に電池、受信回路、駆動回路及び電磁石を設けカバーガラスに磁性体を設けるようにしてもよい。

#### 4. 図面の簡単な説明

第1図はこの発明の一実施例に従ったカブセル型觀察装置の説明図、第2図はマトリックス状に配列した電磁石を用いたカブセル型觀察装置の移動状態を説明する図、第3図は他の実施例であり觀察本体に複数の磁性体を設けたカブセル型觀察装置の説明図、第4図は複数の磁性体とマトリックス状に配列した電磁石を有するカブセル型觀察装置の觀察本体の移動状態を説明する図、そして第5図は他の実施例であり曲ケーブルを用いたカブセル型觀察装置の説明図である。

1.1…観察本体、1.2…ランプ、1.3……觀察光学部、1.5……操作電子子、1.6……磁

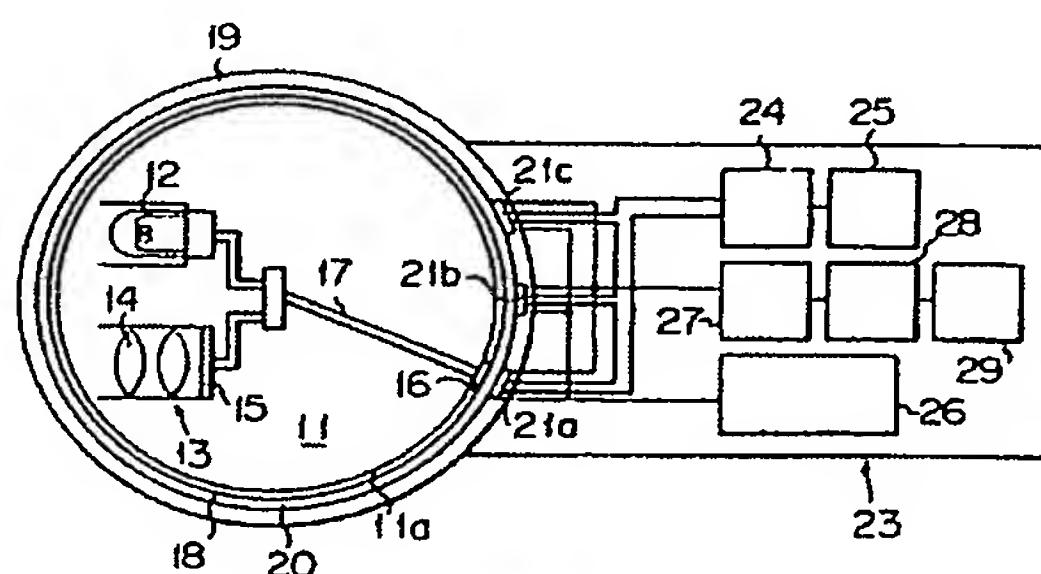
特開昭55-103834(3)  
性体、1.8……開閉、1.9……カバーガラス、  
2.0……絶縁流体、2.1a、2.1b、2.1c…  
…電磁石、2.3……カブセル本体、2.4……電  
磁石駆動回路、2.5……受信回路、2.6……電  
池、2.7……操作電子子走査回路、2.9……送信  
回路。

出願人代理人弁理士 鈴江武彦

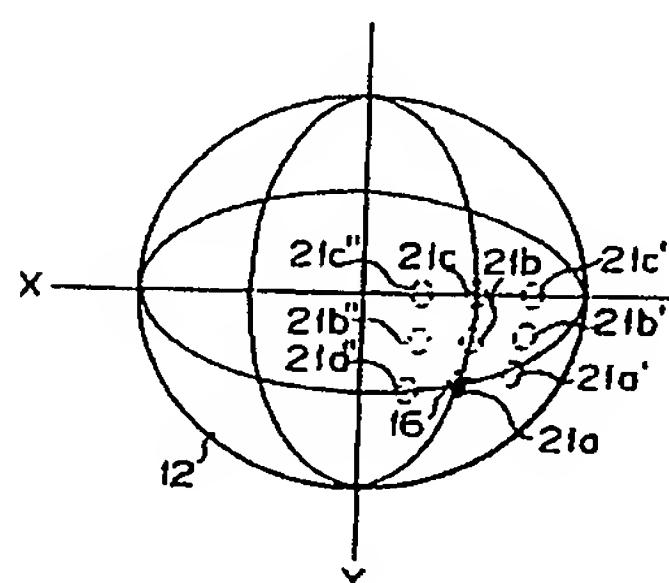
7

8

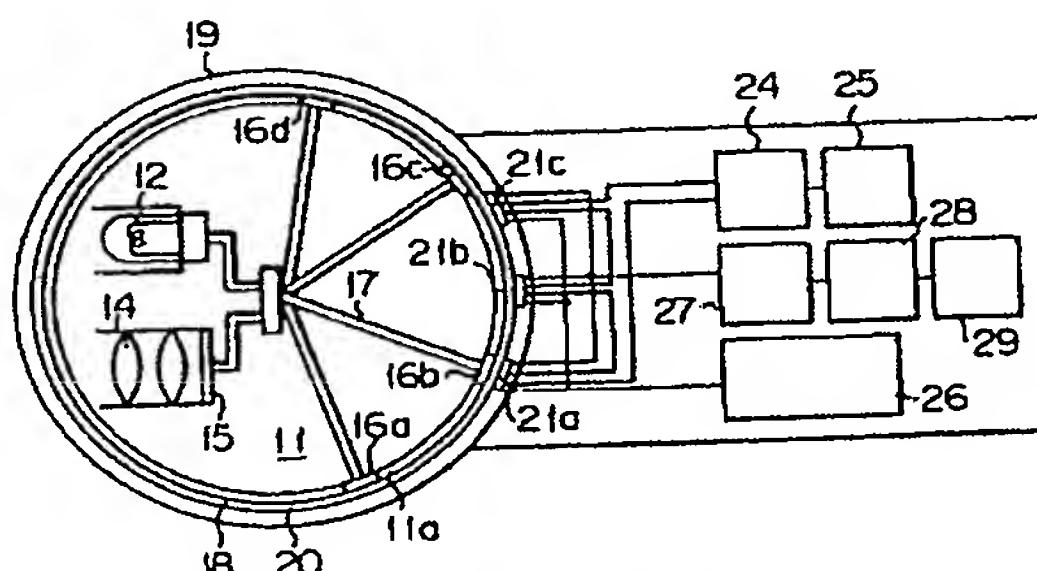
第1図



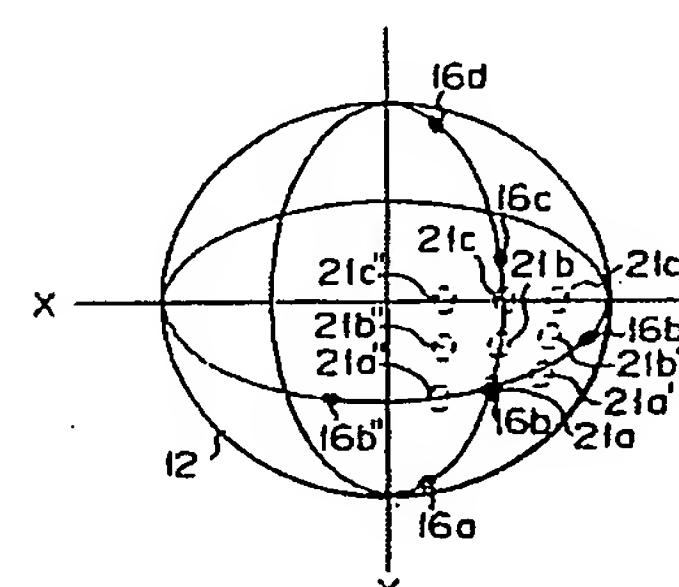
第2図



第3図



第4図



第5圖

